津田左右吉物語

第34回

八十八年の生涯（最終回）

左右吉の研究一途の生涯は後世の者を驚かさずにはいられません。老いて学問・研究に力を尽くした学者は少なくありませんが、左右吉の場合は異例ともいえる学者の「老研」でした。亡くなる一年前まで執筆に専念していたのです。

この強い研究意欲はどうして養われたのでしょうか。左右吉執筆の刊行物は20歳に始まり毎年のように多数の著作、論文を発表したり発刊されたりしました。その数、単行本43冊、論文・草稿359篇にのぼりました。これらは津田左右吉全集35巻にすべて収録されています。

左右吉は、昭和36年12月4日に亡くなるまで、八十八年間の生涯を学問に専念したといえます。学問に専念できたのは、父から幼少のころに四書を習い、文明小学校で森達先生から教えを受け、子どもの時代にきちんとした学問に対する取り組みを身につけたことによります。少年時代に養われたものが生涯を通じて力を持ち発展した結果、偉大な学者として認められました。そして左右吉の学問的な研究は、現代の私たちに大きな影響力を持ち続けているのです。

▶津田左右吉博士